

## 第3章 将来像と方向性

### 1 目指すべき将来像

第2章で整理した「環境の現状と課題」を踏まえ、加西市が次の10年で目指すべき将来像を以下のとおり定めます。

#### ～ 水と緑と人がおりなす風土記の世界を未来につなぐまち 加西 ～

将来像は、播磨国風土記が記された当時の人と環境とのかかわりを将来目指すべき環境のモデルとして、現在の環境との関係性を見直し、必要に応じて改善して将来世代に引き継いでいくことを表現しています。

播磨国風土記には、今の九会・富合地区が檜原里（ならはらのさと）と呼ばれていたとの記述があります。檜とは落葉樹のコナラのことです。当時から人々が山を薪炭林として利用しており、本来優占するシイやカシを伐って、成長の早いコナラ林を増やしていたことが分かります。また、住吉大社神代記の賀毛郡の山林が住吉大社の杣山（神社や寺院の建築部材を確保するための山林）として利用されていたとの記述から、加西の山にはスギ・ヒノキなどの建築材に適した針葉樹も生育する豊かな照葉樹林が残されていたことがわかります。

天からの恵み（水）をため池が受けて、緑が育つことで成立した自然環境を、当時の人々は伐る・育てるの折り合いをつけながら利用してきました。落葉樹のコナラの林は陽の光が届く明るい林となったことから、多様な動植物が生息する環境として今の加西の里山につながっています。

こうした長い年月を経て現在に引き継がれてきた人と環境とのかかわりあいのイメージを『水と緑と人がおりなす風土記の世界』とし、今を生きる私たちがより良い環境を築いて将来に受け渡すことの使命を込めています。



ため池、里山、集落、田畑といった  
播磨国風土記の世界観が残る野条町西新池

## 2 環境目標の設定

将来像を実現するために目指すべきテーマとして、第1章で整理した本計画の対象範囲に基づいて、5つの環境目標を設定します。

### 環境目標1 安全で良好な生活環境と地域の景観づくり

大気・水・音などに代表される生活環境は、市民の生活に直接かかわる身近な環境です。市民が安全で快適に暮らしていくために、良好な生活環境の保全を継続していくことが重要です。

また、加西市は播磨国風土記の世界を今に伝えており、自然・農村・歴史・文化といった多様な景観資源に恵まれています。景観はその地域の歴史や生活文化が目に見える形となって現れたもので、景観を保全することは市民が郷土への誇りをより強く持つことにつながり、生活環境の保全にも必然的に資するものとなります。優れた景観を保全し、魅力ある加西を新しく創造していくことが重要です。

### 環境目標2 生物多様性に育まれた自然環境づくり

加西の豊かな自然環境は、加西独自の貴重な生物多様性を成立させています。この生物多様性は様々な恵みをもたらす源泉で、私たち人間を含めたあらゆる動植物の生存基盤でもあり、継続的に保全していくことが重要です。

### 環境目標3 廃棄物の発生を抑制する循環型社会づくり

持続可能な循環型社会の実現のため、資源をなるべく地域で循環させ、それが困難なものについては循環の環(わ)を広域化させていく地域循環圏を形成し、廃棄物の発生を抑制する取組を地域レベルで行うことが重要です。

### 環境目標4 地球環境に配慮した脱炭素社会づくり

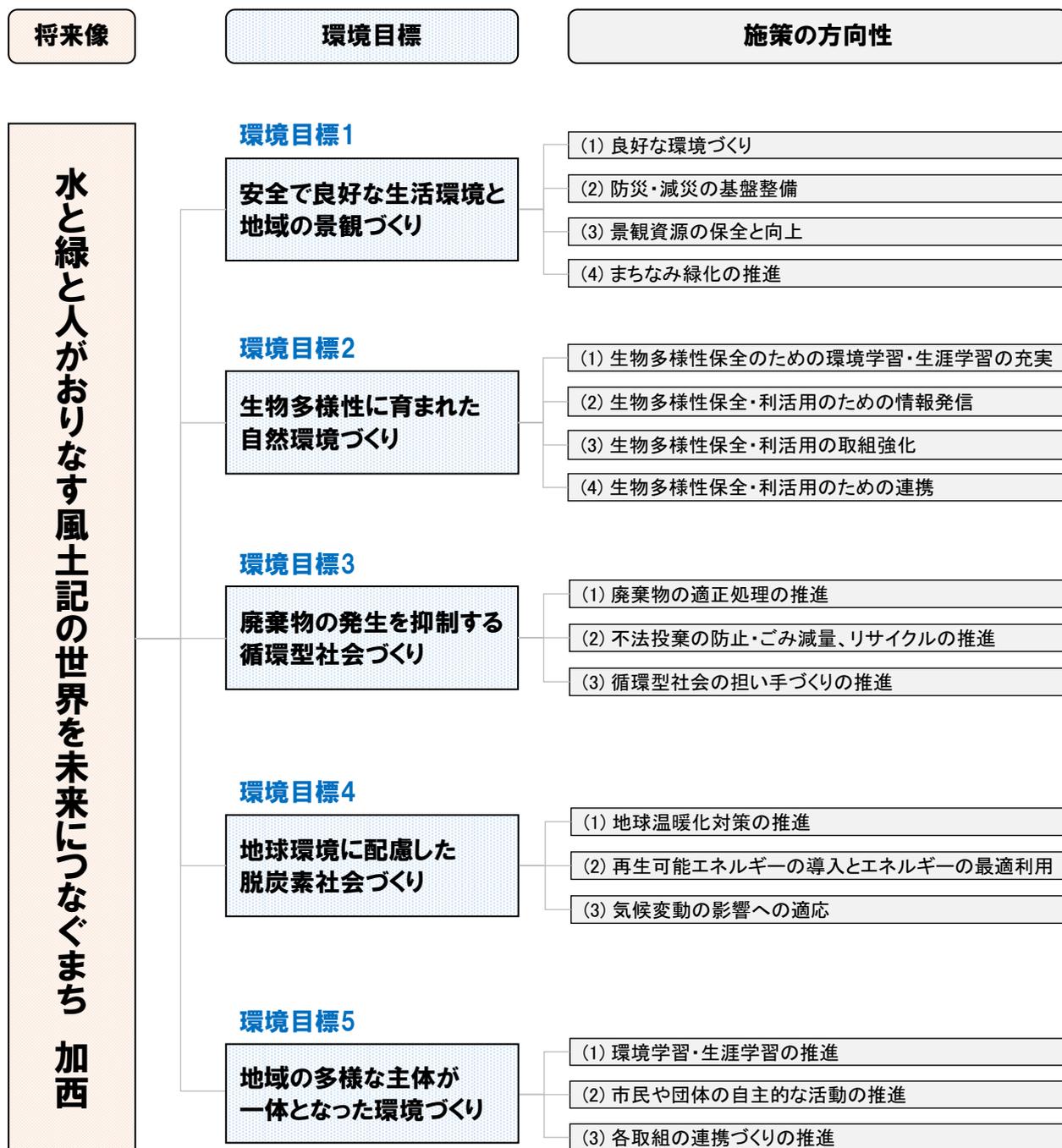
地球温暖化などの地球環境問題は、私たちの生活に関わるものであり、グローバルに考えながら足元から行動する視点に立ち、市町村レベルの小さな施策を着実に積み上げていくことが重要です。

### 環境目標5 地域の多様な主体が一体となった環境づくり

上記の各環境目標を達成するためには、行政主導で施策に取り組むだけでは不可能であり、加西が誇れる生活文化である地域の共同と助け合いによる環境保全の力が不可欠です。地域の自治会や市民団体、農業者団体、NPO など多様な主体が、自分たちの手でできる環境活動に自主的に取り組み、環境保全の担い手として行政とゆるやかに連携することが必要です。

### 3 施策の方向性

将来像を実現するために定めた環境目標ごとに、どのような施策を具体的に進めていくのかを「施策の方向性」として整理しています。



## 4 SDGs の考え方の活用

「持続可能な開発目標（SDGs）」の課題は、加西市を取り巻く課題と共通するものが多く、加西市の持続的な発展を図る上では、加西市自らが積極的にSDGs達成に寄与する取組を進めていく必要があります。加西市では、市民、事業者、団体等と協働・連携しながら、全市を挙げて積極的に取組を推進しています。

また、国の第五次環境基本計画においては、「SDGsの考え方も活用し、環境・経済・社会の統合的向上の具体化を進めることが重要である」としています。

本計画においても、SDGsの17のゴールやそのターゲットの考え方を取り入れながら、地域課題の解決を図るとともに、地球規模の環境問題の解決にも貢献していく取組を推進します。



持続可能な開発目標（SDGs）

### 【持続可能な開発目標（SDGs）の17のゴール】

ゴール1	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる
ゴール2	飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する
ゴール3	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する
ゴール4	すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する
ゴール5	ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う
ゴール6	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
ゴール7	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する
ゴール8	包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する
ゴール9	強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る
ゴール10	各国内及び各国間の不平等を是正する
ゴール11	包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する
ゴール12	持続可能な生産消費形態を確保する
ゴール13	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
ゴール14	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
ゴール15	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
ゴール16	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
ゴール17	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する